

# 震災に関わる「いのちの学習」

ねらい

- 自然災害から、自分のいのちを守る方法を知ることができる。(自助)【全学年共通】
- 被災者や被災地に対して、自分ができていることを考えることができる。(共助・公助)【4～6年生のみ】

## 1 学校全体の取り組み(1/15～1/19)

(1) 地震の被害を知る。

地震(じしん)が起(お)きたらどうなるでしょう



①水(みず)がない

石川県(いしかわけん)、熊野地方(くまのちほう)の各地(かくち)の避難所(ひなんしょ)では、飲料水(いんりょうすい)などの「水(みず)が不足(ふそく)している」という声(こゑ)が上がっています。

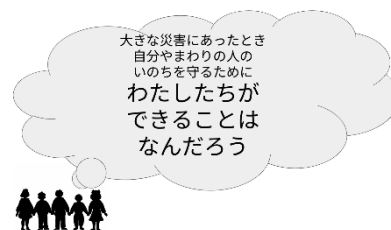
水(みず)がないと、どうなるのでしょうか?



(2) 被災地の生活を知る。

(3) 被災地の支援について知る。

(4) 被災した時、自分ができていることを考える。(4～6年生のみ実施)



## 2 各学年の取り組み(1/22～1/26)

(1) 1年生

被災した時、子供ができていることを体験する。(新聞紙スリッパ作り)



地震(じしん)が起きた時は、地面(じめん)に危険(けいけん)なものが落ちて(お)いることが分(わ)かった。



身近(みぢか)なもので、自分(おれ)たちの身(み)を守るものが作(つく)れることが分(わ)かった。

(2) 2年生

被災した時、子供ができていることを体験する。(紙食)



地震(じしん)が起(お)こるといっつも(いつも)の生活(せいかつ)ができなくな(な)ると知(し)った。



器(き)作り(作り)体験(たいけん)

災害(さいがい)のとき(とき)に新聞紙(しんぶんし)が役(やく)に立(た)つことが分(わ)かった。

(3) 3年生

避難所(ひなんしょ)の生活(せいかつ)について、子供(こども)ができ(き)ることを考(かん)え体験(たいけん)する。(スリッパ作り、紙食器作りなど)



避難所(ひなんしょ)の人(ひと)がどん(どん)なこと(こと)にこま(こ)ま(ま)っているか気(き)付(つ)いた。



やっ(や)ってみ(み)たら自分(おれ)にもでき(き)そう(そう)なこ(こ)と(と)が分(わ)つ(つ)けられ(られ)た。

(4) 4年生

避難所の生活について、子供ができることを考える。(応急手当、公衆衛生など)



災害関連死を予防  
するための方法を  
学んだ。



応急処置として、  
止血方法を学ん  
だ。

(5) 5年生

避難所で、自分や周りの人のためにできることを考える。(災害時用トイレ作り)



身の回りのもので  
簡単に災害用トイレ  
の作り方を学ん  
だ。



子供や高齢の方な  
ど、相手に合わせた  
トイレの形があるこ  
とがわかった。

(6) 6年生

避難所で、自分や周りの人のためにできることを考える。



避難所の生活で  
は、どんなものが  
必要になるだろ  
う。



避難所では集団生活  
を送ることが分かっ  
た。自分たちにでき  
ることはあるかな。

(7) ひばり学級 (あおぞら4~6年生)

災害によって物資が不足していても、工夫することで補えることがあることを知る。(紙食器作り)



新聞紙で簡単に  
作ることができるん  
だ。



これがあれば、  
物がなくても生  
活できる。